

奨励賞

公的年金・社会保険教育の 授業を発展させてみて

広島県・近畿大学附属東広島高等学校・中学校

田中 由美子

1. はじめに

平成15年から、高校の家庭科の授業に公的年金・社会保険教育を取り入れてきた。

以来、毎年、授業前のアンケートをとっている。その中で、『社会保険・年金についてどの程度授業で知りたいか』という問いに対して、①「大切な事項だと思うので詳しく知りたい」、②「おおまかに知りたい」、③「どちらでもよい」、④「特に必要を感じないので、他のことをもっと教えてほしい」という答えを設けていたが、4年前と本年では随分意識が変わってきた（添付資料①）。

世論でのこの分野への意識と興味の高まりが、高校生にまで波及しているのではないと思われる。

授業内容は、国民年金の概要、厚生年金、健康保険、雇用保険の加入要件と給付内容、給与計算の方法などをB4判のプリント6枚を用いて説明し、近い将来、皆が手にする給与明細の計算が確実にできるようになるまでを2時間強の授業で扱った（この詳しい内容は、昨年の本コンクールにて発表させていただいた）。

そして、授業後の感想に、例年、約9割の生徒が「役に立った」「難しいかと思っていたが、予想していたよりわかりやすかった」「知ることができてよかった」「最近では年金関連のニュースや新聞の内容がわかるようになったのがうれしい」と述べるようになり、おおむね好評と捉えていた。しかし、毎年、数人の生徒が「役に立つとは思いますが、難しかった」「もう少し時間をかけて学びたかった」と記していた。これを少数意見と処理するのではなく、汲み取り、授業に反映させたいと考えた。

そこで、本年度は1学期にこの分野の学習を終え、その内容を生徒の頭の中で活用、反芻させるような教材、課題を取り入れてみた。その実践について述べたい。

2. 年間の家庭経済・消費者教育分野の指導内容（添付資料②）

- (1) まず、4月にライフプランの作成をさせる。本校では、家庭科の履修が高校2年時の1年間で、将来の進路を考える最適の時期だと思う。数年働いた先輩の経験談の資料を読ませ、幼稚園（保育園）から大学卒業までに自分にかかる教育費を計算させ、将来、住宅を購入する際にかかる利息の額を利率・借入れ期間別に比較させ、ローンで買い物をする際の利息の計算をさせる。このようなプロセスの中で、仕事への興味、勉強することの意義、親への感謝の念、利息というものの額の大きさ及び、貯蓄をしておくことの大切さ……等を感じるようである。作成されたライフプランには、夢を描き、自分に投資しながらも、若いうちから堅実に貯蓄しようという姿勢が多く見受けられる。
- (2)、(3) 次に、クレジットカードのしくみ、多重債務に至るプロセス、悪質商法の手口と対処法、クーリングオフ制度の内容と方法、特定継続的役務取引の種類と解約時の手数料の上限額、消費者金融の金利の矛盾点、連帯保証人の危険性、自己破産の内容などについて学ぶ。過去に経済産業省から配布されたビデオがわかりやすく、生徒の興味をひくような構成であるため導入に使用した。
- (4) そして、1学期の終盤に公的年金・社会保険の内容を学んだ。その直後に期末試験があったため、この部分の内容は給与計算も含めて例年以上に得点率が高かった。
- (5) 期末試験後から夏休み前の授業で、A、「ひとり暮らしの衣・食・住・家計をデザインしよう」というテーマと、B、「経済・人生ゲームをつくろう」というテーマの2つのうちどちらかを選択させ、グループで実施させてみた。本校生徒は、ほぼ全員が進学し、そのうち約4分の3は卒業後すぐ、ひとり暮らしを始める。授業で学んだことを自分のこととして楽しみながら復習させたいとの思いから、考えついた教材である。
- (6) 夏期休暇中の課題として、「金融広報中央委員会主催、『金融と経済の明日』第4回高校生小論文コ

ンクール」または「広島社会保険事務所主催、年金作文コンクール」のどちらかの応募作品を書くことを課した。試験のための勉強だけではなく、自分の意見をまとめることにより、さらに興味を深め、知識の定着を図ることをねらいとした。

3. 実践内容 (添付資料③)

A. 「ひとり暮らしの衣・食・住・家計をデザインしよう」

1. 「これであなともひとり立ち」(金融広報中央委員会発行)の指導書P 26をコピーした資料及び、生徒用ワーク5. から、ひとり暮らしの大学生、社会人の生活費の目安を知る。
2. 大学生、社会人のどちらかの設定を決め、収入額を決定する。
3. そこから社会保険料などを差し引いて可処分所得を求め、その金額の範囲内でやりくりする。
4. 「〇〇重視生活」とタイトルをつけ、自分の生活の中で優先したいものを考える。
5. 衣…カタログやチラシを持参し、値段も配慮しながらコーディネートを考える。
食…「これであなともひとり立ち」の食事選択演習シートから1日3食、3日分の献立を考える。
好みだけでなく、バランス、費用も考慮する。
住…「これであなともひとり立ち」のワーク7. を使って、部屋の間取り図を描き、居室や台所に適した方角や動線についても考慮しながら家具を配置する。
家計…好みや希望を取り入れながらも、予算の範囲内で収まっているかどうか検討する。

B. 「経済・人生ゲームをつくらう」

授業で学んだ、一生の間に起こりうる経済に関連のある事柄(教育費、住宅ローン、給与、労災、病気・入院時の費用、年金、人生のリスクに備える保険や貯蓄……など)を盛り込んで人生ゲームをつくる。

4. 実践させてみて

A. 「ひとり暮らしの衣・食・住・家計をデザインしよう」

約8割の生徒がこちらを選択した。

私の予想以上に、非常に楽しんで取り組み、きちんとした内容に仕上げていた。食事はもっと好み優先でバランスが悪くなるかと思っていたが、栄養のこともよく考えていた。また、テレビで「節約生活」を楽しむ番組があり、その影響もあってか、節約することを恥ずかしがるのではなく、楽しんでいる様子も見受けられた。「なるべく節約して貯金をして、学生時代に留学したい」などという前向きな発言もあちこちで聞くことができ、頼もしく思った。家具も見ただけでなく、機能性や社会人になってからも使えるもの、などと考えて選んでいた。衣類は、高くても着心地が良さそうでシンプルで長く着られるもの派と、安くて見た目がかわいらしくてたくさん買いたい派に分かれ、こだわりの差が一番出ていた。

仕上げた後の感想としては、

- ・思っていた以上に大変だったけど、楽しかった。きっと、ひとり暮らしを始めたときに役に立つと思う。
- ・食事を予算内に収めながらも栄養のバランスを考えるのが、難しかった。母さんは毎日こんな風に考えながら作ってくれているのかと思うと有り難みを感じた。
- ・給与計算をしたときは社会保険料や税金の額をあまり気に留めていなかったけれど、いざ、自分の生活費から引かれるとなると高いなあ実感した。

-
- ・早くひとり暮らしがしたくなった。
などというものがあつた。

B. 「経済・人生ゲーム」

授業で学んだ事柄をたくさん盛り込んで作ることができている班もあつたが、娯楽的な要素や、非現実的な事柄が多く含まれている班もあつた。来年以降は、事前指導をもっと細やかに行つてから取り組みたい。

C. 「夏期休暇課題、小論文・作文」

この課題のために、授業用プリントを再読したり、配布資料を読んだり、自分の知りたいことをインターネットで調べたりした生徒が多くいた。

また、それを見ることで、私自身も生徒が知りたがっている事柄や、授業に取り入れると良い内容、生徒の心に印象的に残ることなどがよくわかり、大変参考になった。

書かれていた内容の一部を挙げると、

- ・ニュースや噂話だけを聞いていると、年金はもらえなくなりそうだし、税金は上がりそうで、一般の国民は辛いことを強いらられるばかりのようなイメージがあつたけれど、こんなに社会保険や公的年金に守られているのだと知つて驚き、安心した。税金も年金もみんなできちんと納めなければいけないと思つた。
- ・父も母も働いている姉も給与明細の見方を知らなかつたし、明細票を今まで捨てていたらしい。ぼくが、明細票の見方と捨ててはいけないことを教えた。感心された。
- ・年金は、保険料を納めても私たちの年代はもらえなくなるから自分で貯金したほうがいいという話を聞いて、わたしも納めたくないと思つていたけれど、もし、100歳まで生きてしまったら、そんなに貯金できる自信はないから、やはり公的年金は有り難いし納めておこうと思つた。
- ・年金なんて、ずーっと先のことで自分にはまだまだ関係ないと思つていたけれど、20歳にはもうすぐなつてしまふし、障害年金のことも知つて、すごく身近なことに思つてきた。
- ・年金、ローンの利息、連帯保証人のことなどを習つて、世の中、知らないといふ損をすることがたくさんあるのだなあとと思ひ、知らないといふことは恐ろしいことだとも思つた。自分でも勉強しないとイケないけれど、やはり学校できちんと教えて欲しいと思ふ。授業でいろいろなことが聞けてよかつた。

などというものがあつた。

やはり、授業とテストだけで終わらせるよりも、自分の考えをまとめることで、知識の再確認や実生活に即した意見を持つことにつながるのではないかという印象を受けた。

5. まとめ

生きていくためには「お金」は不可欠なものである。得方、使い方、管理の仕方を誤ると人生を台無しにしてしまう可能性もありうるという大事なものである。そういう意味でも、この分野の実生活に即した学習は、ぜひ、学校教育に取り入れたいと考える。

しかし、「お金」さえあれば心豊かな人生が送れるわけではないことも伝えたい。

食生活においても、衣生活においても「手作り、コーディネートができる」ことは喜びと楽しみが味わえる。「子どもやお年寄りとのふれあい」は慈しみの気持ちと役立ち感が味わえる。専門家に任せがちな「住居や経済に関することを自己管理できる」ことは、愛着や責任感や達成感を持つことにつながる。

「金融・経済」に関する内容を、他の分野とは別にバラバラに教えるのではなく、生活の中の大切な一本の柱として、できれば他分野と結び付けて、トータルに教えたい。

「はじめに」の意識調査にあったように、高校生にも「金融・経済」に対する意識の高まりがみられる。この高まりの波をすくい上げて、これからも生徒が楽しみながら学び、力をつけて実生活で生かすことができ、自ら学ぶきっかけになるような授業・教材になるよう工夫して、積極的に取り入れていきたい。

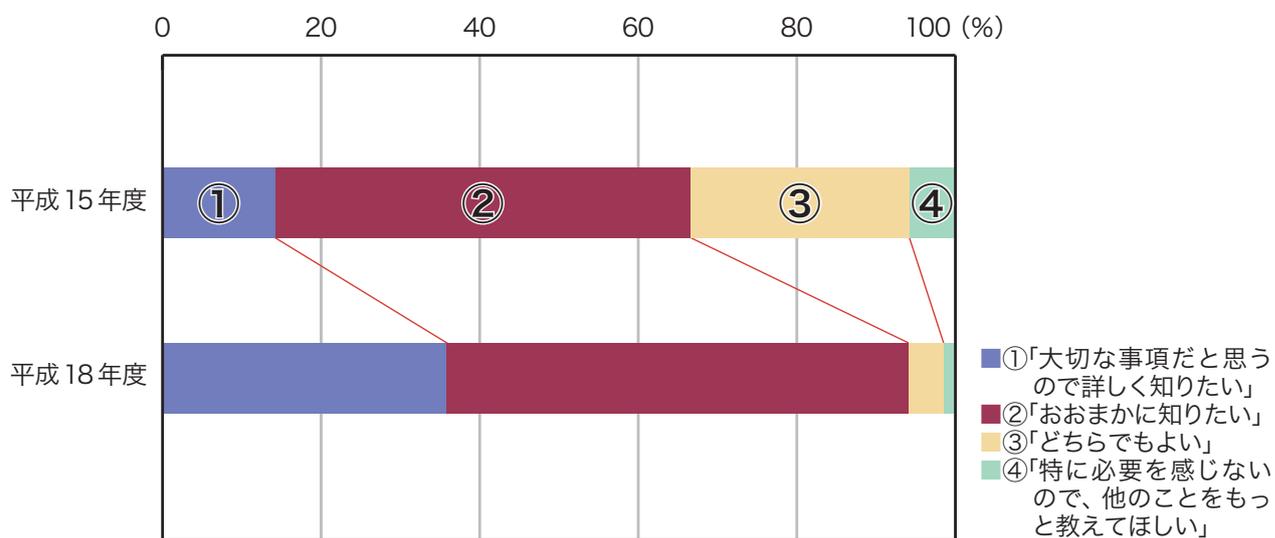
指導前アンケート

資料①

『社会保険・年金についてどの程度授業で知りたいか』

	平成 15 年度	平成 18 年度
① 「大切な事項だと思うので詳しく知りたい」	14.2%	35.8%
② 「おおまかに知りたい」	52.4%	58.2%
③ 「どちらでもよい」	27.6%	4.5%
④ 「特に必要を感じないので、他のことをもっと教えてほしい」	5.8%	1.5%

『社会保険・年金についてどの程度授業で知りたいか』



資料②

指導内容

単元「家庭の経済生活、消費者教育」(9時間)

- (1) 一生の生活にかかる費用、ライフプラン作成・・・2時間
- (2) クレジット、多重債務、悪質商法(ビデオ視聴)・・・1時間
- (3) 消費者金融、悪質商法、クーリングオフ、消費者契約法・・・2時間
- (4) 公的年金・社会保険、給与計算・・・2時間
- (5) ひとり暮らしの衣・食・住・家計をデザインする or 経済・人生ゲーム・・・2時間
- (6) 『金融と経済の明日』小論文 or 『年金作文』・・・夏期休暇課題

学習内容と達成目標

学習内容	達成目標
(1) ・若い社会人数名の経験談を読む。 ・教育費、住宅ローン、利息の計算 ・ライフプラン作成	・働くことの意義、楽しみ、やりがい、苦勞などを知る。 ・幼稚園から大学卒業までに自分にかかる教育費、住宅ローンの金利・借り入れ期間の違いによる利息額の差を知る。身近な買い物の利息計算ができる。 ・現実的な金銭計画なども盛り込みながら、夢と希望を描く。
(2) ・クレジットカードのしくみ、多重債務に至るプロセス、悪質商法の種類と手口	・クレジットカードでの買い物は借金が発生し、払い終えるまで自分の所有物ではないこと、安易なクレジットカード使用が多重債務につながり、決して特殊な人だけが陥るのではないことを知る。 ・悪質商法の具体例をビデオを見て、警戒心を持ち、断り方を学ぶ。
(3) ・消費者金融、悪質商法、クーリングオフ、消費者契約法	・二つの法の狭間で生じたグレーゾーン金利について知り、矛盾点、万が一の場合の対処法を理解する。 ・さまざまな悪質商法の手口と対処法、クーリングオフ制度の内容と方法、特定継続的役務提供取引の種類と解約時手数料の上限額、連帯保証人の危険性、自己破産の内容とデメリットなどについて知る。 ・消費者契約法の内容を理解する。
(4) ・公的年金・社会保険の概要 ・給与計算	・公的年金・社会保険の概要、給付内容、手続きの仕方を知る。 ・給与明細の見方がわかり、給与計算ができる。 ・労働者がうけとる給与額と使用者が負担する額を比較し、使用者が労働者に投資していることを知り、労働者の権利と義務の両面を理解する。
(5) ・A.ひとり暮らしの衣・食・住・家計をデザインする ・B.経済・人生ゲームをつくる	・これまで、家庭科の授業で学んできた知識を生かし、「これであなたもひとり立ち」(金融広報中央委員会発行)のワーク5、7、12を用いて、カタログの切り抜きも利用しながらひとり暮らしをトータルにデザインする。 ・家庭経済、消費者教育で学んだ内容を盛り込んだ人生ゲームを作ること、リスクに備える発想を養い、知識の定着をはかる。
(6) ・小論文、作文を書く	・疑問点を調べたり、自分の考えをまとめたりすることで、知識の定着をはかる。

